

筑波研究学園都市研究所・大学関係 9 条の会

## 9 条 の 会 ニュース

NO. 14 2007. 10

名称：筑波研究学園都市研究所・大学関係 9 条の会

郵便振替口座番号：00120-4-501101

発行責任者：茅野徳治：TEL / FAX 029-857-6593

〒 305-0023 つくば市上の室 1829-1

### 9条改憲派の論理 (2007. 8. 15 NHKの討論番組から)

#### ――> : 私の反論

岡 田 安 正

今年の終戦記念日をはさんで、9条改憲について多くの議論がマスメディアでなされた。そのひとつ、NHKの討論番組で出された改憲派の論理を吟味してみたい。

自分の国は自分で守るという気概を持て、徴兵制は自分たちで守ろうという意識だ。憲法では自衛権が否定されている。命だけ大事なら、植民地の民になるしかない。国家が大事

――>戦争は殺し合い。軍隊は国民を守るものでなく、国家を守るものである。軍事力に頼らない国防こそ迫及すべきで、そこに人類の知恵が発揮されるべき。自衛権は自然権として認められているというのは周知のこと。どうして、人類の命を考えないのか。日本の軍隊は侵略の歴史であった。

自衛隊は廃止できない。自衛軍と明記すべき。相手から攻撃されないように実力が必要。

――>自衛隊が、専守防衛(必要最小限のもの)からはみ出ている。不必要なもの(M4戦車、米軍との共同訓練など)に無駄遣いをしている。軍事力世界第5位で決して弱くない。その上、防衛のためと、攻撃のためか区別できない。9条があるから自衛隊は攻撃できない歯止めになっている。強大な軍隊が日本を守っているわけでない。

ミサイルを迎撃することもできないのはおかしい

――>個別的自衛権の発動でできる。まず、外交で、ミサイル攻撃を避けるようにすべき。

国家の安全保障を定めるべき。核兵器、ミサイルに囲まれているとき、国家を守るのは軍事力でしかない。不安がある。日本は世界の指導者であって、テロの標的になっているし、中国、ロシアが脅かしている

――>国を守るのは軍事でなくてもできる。軍事力に頼ると、どれだけの必要か際限がない。人類の安全保障が9条である。むしろ、アメリカ言いなりの行動が、危険性を作り出している。

国連の軍事行動に参加すべき

――>PKOで日本の平和イメージで武装解除をした。

北朝鮮になめられている、(専守防衛だから) 竹島、北方領土も侵害されてきた。備えがあれば、他国は攻め入らない。暴力的、排他的国家に立ち向かうのに外交力だけで立ち向かうことはできない。北朝鮮問題があるから、イラク、アフガンに行かざるを得ない。アメリカは抑止力になっている。

――>アメリカ並みの軍事力でも同じ、拉致問題の解決は世界の世論で包囲し、外交で解決すべき

日米安保なしには9条は成り立たない。無

防備で国を守るには相当な覚悟が必要。日米同盟があったから9条でいられた。

アメリカの行動に追随していいのか。日本の軍事力が必要。そうすれば、アメリカにNoといえる。9条があるから、沖縄問題がある。

――>アメリカのグローバル経済戦略がある。それに貢献することがなぜ国際貢献か。自衛軍で沖縄のアメリカ軍の代わりをすることはできない。

シーレーン防衛が必要、世界に依存しなくては生きていけない。守れるのか。

海外で緊急事態のときに、自衛隊が日本人を救援できるようにすべき。

――>紛争地でも日本人は平和民族だからと活動させてくれた。それぞれの国の領海

はその国の主権で安全を保障されるべき、日本が出て行って警備するのはおかしい。

自衛隊は国民軍。かつての皇軍ではない。

――>沖縄では戦争中に軍によって民衆が殺された。軍は住民を守らない。究極的に軍隊の本質は変わらない。

あいまいな解釈で自衛隊を持っているからアジアから信頼されない。

国際貢献に自衛隊が出るべき。PKOで武器使用ができない。国連の指揮下に入れない。

――>イラク戦争は侵略戦争。米軍と一体化した国際貢献。アメリカの要請である。軍事作戦をしなければならなくなる。侵略戦争に手を貸している。この現状を変えなければいけない。

## 筑波研究学園都市研究所・大学関係 9 条の会 第 5 回講演と対話の集い

【日時】 2007 年 12 月 2 日（日）午後 2 時～午後 5 時

【場所】 竹園公民館ホール（入場無料）

【講演】 「北東アジアの平和の構築と 9 条の役割」

【講師】 進藤 栄一教授（筑波大学大学院名誉教授  
江戸川大学グローバルアジア・センター長教授）

どなたでも、ご自由に参加出来ます。

07 年 10 月 10 日現在  
賛同者数 817 名（+2 名）  
（ ）内は前号以降の増加数

## 事務局だより

○ニュースの原稿を募集しております。できましたら 9 条への思いや戦争体験、戦中戦後の生活状況など 1200～1500 字程度でお願いいたします。

○本会では「筑波研究学園都市研究所・大

学関係 9 条の会アピール」への賛同署名を広くお願いしています。

[http://peace.arrow.jp/tsc/i\\_home.php](http://peace.arrow.jp/tsc/i_home.php)  
にアクセスしてください

○9 条の会ニュース等の配布は、メールアドレスを登録されている方には電子メールで、それ以外の方には郵送しております。

○「会」へのお問い合わせは

・茅野徳治：電話・Fax：029-857-6593

・e-mail：

岡田安正 [spc873x9@comet.ocn.ne.jp](mailto:spc873x9@comet.ocn.ne.jp)

堀田博之 [zkodaly@nifty.com](mailto:zkodaly@nifty.com)

